

平成24年第15回福岡県教育委員会会議（定例会）会議録

1 開催日時

平成24年9月3日（月）14時00分から14時22分まで

2 場所

福岡県庁4階 教育委員会会議室

3 出席委員

住吉徳彦、久留百合子、二子石竜子、清家渉、久保田誠二、杉光誠（教育長）

4 欠席委員

なし

5 出席事務局職員

教育次長 荒巻俊彦、理事 大賀龍夫、総務部長 西牟田龍治、
教育企画部長 城戸秀明、総務課長 吉田法稔、義務教育課長 家宇治正幸

6 会議

14時00分、住吉委員長が開会を宣言し、本日の議題について非公開発議の有無の確認を行った。

本日は非公開案件なく、公開と決定された。

（1）報告

- ・平成24年度全国学力・学習状況調査の結果について

家宇治義務教育課長から、平成24年度全国学力・学習状況調査のうち抽出調査の結果概要や学力向上に向けた取組等について説明がなされるとともに、抽出校を含む県全体の調査結果については、今後、義務教育課にて取りまとめの上改めて報告する旨の説明があった。

次いで審議が行なわれ、清家委員から、全国の平均値に対し本県の調査結果が下回るようになった要因や本県の取組について質問があった。

これに対し、家宇治義務教育課長から、決定的な要因について明確にすることは困難だが、学力向上新戦略など、学力向上等に関する施策により学校・家庭・地域の連携を図り、本県教育力等の向上を図っている旨の説明があった。

また、久留委員から、「活用」に関する問題の調査結果について質問があった。

これに対し、家宇治義務教育課長から、教員が、児童生徒の活用に関する問題を解決する能力を向上させるには、児童生徒の持っている基本的な知識を適切に活用することなどを指導していくことにより、基礎的な学力の向上と併せて問題を解決する力の向上を図っていく必要がある旨の説明があった。

また、二子石委員から、調査対象である中学3年生は小学6年生の時にもその調査対象となっているが、調査結果の分析による支援のあり方など、具体的な本県教育委員会の対処について質問があった。

これに対し、家宇治義務教育課長から、小学校6年生時と中学校3年生時に重複して調査を行った児童生徒は今回で3回目となるが、地域や学校間においてそれぞれ課題が異なることや市町村教育委員会に対する県教育委員会の指導、支援施策の浸透状況を踏まえつつ、今後、悉皆調査の結果を分析した上で対処していく旨の説明があった。

また、住吉委員長から、本県の児童生徒に対する学力向上の支援状況等について質問があった。

これに対し、家宇治義務教育課長から、非常勤講師の配置による習熟度別授業の実施、教員研修による小・中学校の連携、児童生徒の家庭学習の習慣化を図る手引き作成など、市町村教育委員会に対する具体的な支援により本県が特に支援している市町村教育委員会については、県全体との学力差は解消されつつあると認識している旨の説明があった。また、各教育事務所の支援チームには、多くの学校から派遣要望がありその学力向上の取組を支援しており、特に、小学校の教育内容が高度化してくる4・5・6年生への指導強化に関する支援は重要であることから、各市町村教育委員会において、児童の学習習慣を確立するため、平成23年度から算数・数学の教科講座を夏季休業中に実施することにより、児童の理解度を評価するとともに、その状況によっては学校内で補習を実施し学力の向上や学習習慣の定着を図っている旨の説明があった。

住吉委員長が閉会を宣言し、14時22分閉会した。